

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番号 ばんごう
涼風に誘われふるさと訪れば	君の横私と君を吹き抜ける	紅葉が風に吹かれて舞い上がり	紅の紅葉は落ちて赤き風	オレンジで丸くて甘い干し柿よ	紅葉咲き綺麗な赤色見惚れてた	焼き芋のかすかな匂いに誘われて	秋悲しき紅葉の散る音心の音	紅葉を見ながら食べる焼き秋刀魚	どんぐりの餌を求めてやって来た	上の句 かみく
探偵コーヒー珈琲	十六夜咲夜	秋刹	紅椀	るるみい	ゆき	もこっぺ	みどりぼうし	おまめの妖精かなむら	木の実好物小さな子リス	下の句 しもく
土のあぜ道黄金の稲穂	秋風に乗った紅葉と銀杏	まるで紅葉が踊っているよう	早き雪は白き冷たき	私の心は秋もよう	頬を撫で吹く優しい風	窓を開けると紅葉の出迎え	秋の思い出いつまでも胸に	他の季節に無い味がする	きのみこうぶつちいさなこりす	作者 さくしゃ
あきかぜにのったもみじといちよう										